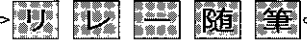


農業研究の現場から



農業研究施設紹介(11)

石原産業株式会社 中央研究所

こうみょうじ てるまさ
光明寺 輝正

所在地：滋賀県草津市西浜川2丁目3番1号

Message from Our Research Site. ISHIHARA SANGYO
KAISHA, LTD. By Terumasa Komuro
(キーワード：農業研究，農業開発)



新研究棟（1984年竣工，1号棟）全景

はじめに

当社は、1920年（大正9年）創立の無機化学事業と有機化学事業を手掛ける総合化学メーカーである。有機化学事業は、農薬や有機中間体を製造・販売すると共に、遺伝子解析のために開発した研究用試薬（HVJ-E VECTOR KIT）を医療研究機関に提供している。

グローバルな農薬マーケットの競争が激化するなか、国際競争力のある自社開発剤（トウモロコシ用除草剤ニコスルフロン，果樹野菜用殺菌剤フルアジナムなど）を国際的に展開している。

I 当社における農業事業の開始

当社は日本における農薬（除草剤）のパイオニアとして、1950年（昭和25年）のアメリカン・ケミカル・ペイント社（ACP社）よりの水田用除草剤「2,4-D」の技術導入，四日市工場での製造に始まる50年以上の長い歴史を持っている。

1948年，当時，兵庫県軍政部にいたエンゲル少佐が「2,4-D」をアメリカから取り寄せ，家庭農園の除草に使用していた。同少佐は，農民が炎天下で汗まみれになって草取りをしている姿を見て，本剤を日本の水田の除草に利用できないかと考え，兵庫県農事試験場の井上肇技師に試験を依頼した。同技師は直ちに検討を開始し，縁あって当社関係者もその試験圃場へ見学に出かけたところ，雑草は枯死していたがイネは元気に育っており，すばらしい効果であった。

その後，全国的に圃場試験が実施され，1950年，「2,4-D普及会」を日産化学と共に設立した。3月に農薬登録した後，本格的な普及・販売を開始し，日本

に化学除草という画期的な技術をもたらした（1993年，農業試験研究一世紀記念式典において，「2,4-Dの導入と粒剤化」の功績により，2,4-D産官学研究グループの一員として，農林水産大臣賞を受賞）。

II 所在地

農業研究の中心である中央研究所は，琵琶湖を有する滋賀県の南部，草津市にある。古代より交通の要所である草津は，江戸時代，東海道・中山道の宿場町として栄えた。当時の面影を伝え，一般公開されている「本陣」の大福帳には，浅野内匠頭，吉良上野介，土方歳三が泊ったことが記録されている。

2005年10月現在，草津市は人口11万人を超え，京都・大阪のベッドタウン，滋賀県第1位の工業都市，立命館大学びわこ・くさつキャンパスを有する文教都市として発展を続けている。

III 研究所の歴史（農業研究を中心に）

当社における研究活動は1932年（昭和7年），尼崎に研究所を開設したことに始まり，武庫川研究所，戦中・戦後の研究中断期を経て，1958年，四日市研究所が四日市工場敷地内に設置された。その後，1963年，四日市研究所を中央研究所に改称すると共に，現在の地（草津市）に農事試験場を開設した。

東京オリンピックの翌年，1965年（昭和40年）4月，当時の草津市では数少ない鉄筋3階建ての本館（現2号棟）が竣工し，中央研究所が四日市から移転した。移転当時，研究所から琵琶湖まで水田が続き，研究所前の草津線をSL機関車がのんびりと走っていた。草津・中央研究所は，農薬（除草剤中心），酸化チタン，塗料，金属を研究対象とする総合研究所とし